

# 私 の 工 夫

生徒が主体的に考える  
授業づくり  
～授業の終末部に着目して～

岡山市立岡北中学校

教諭 山中 誠志



## 1 はじめに

昨年の11月、第49回全国中学校社会科教育研究大会が岡山で開催され、私も公民的分野の研究推進員及び公開授業担当者として研究にたずさわった。研究主題を『生きる力を培い、未来を創る社会科学習』～自らの学びを見つめる学習活動～と設定し、社会認識の形成と将来の社会参画の基盤となる思考力・判断力・表現力の育成を目指した。また、授業での学びが、今後の生活に生きる学びとなるために、授業の終末における学習のまとめや振り返り活動をどうすればよいか、という内容に重点を置き、研究を進めた。

## 2 実践について

本単元では、「くらしと経済」における「契約の重要性」を扱った。開発した授業は2単位時間で構成されており、第1時は契約の概念を習得する学習活動で、第2時は第1時で習得した概念を活用

- ①明治政府に不満をもった土族の動きに着目して書かれた文章中□□に当てはまる語句を答えなさい。
- ・1874年、板垣退助らは、国会開設などの要求を明治政府に出しました。これが、□□運動の始まりです。
- ②大日本帝国憲法を制定する上で、ドイツ(プロイセン)の憲法を参考にした理由を説明しなさい。
- (平成27年度及び23年度岡山県立高等学校一般入学者選抜学力検査問題一部改編)

して事例を検討する学習活動である。契約とは「売り手と買い手の意思が示され、合意した時に成立する」という概念であり、その習得と活用を目指した。

(1) レディネステストの実施  
実践の前段階として、研究が生徒の実態に即したものでならなければならないと考え、1学期に次のような問題に取り組ませた。回答の結果は表1に示したとおりである。

①正答率	85.2%
②正答率	52.9%
誤答率	29.5%
例：君主制(政)が強いから。	
立憲君主が強いから。	
ドイツは、天皇を中心とする世の中だから。	
ドイツが平和だから。	
無回答率	17.6%

表1

①の結果からおおむね重要な語句の理解はできているものの、②の誤答を分析すると語句の意味を十分に理解し論述する力を育成できていないことが分かる。このように、生徒が論述を苦手とする理由は、社会的事象の理解が表面的なものに留まり社会的事象の本質や意義を十分に捉えることができていないからであると考えた。

(2) 社会的事象の本質や意義を捉えさせる指導の改善

レディネステストの結果を受けて取り組んだ指導改善のポイントは次の2点である。

ア 既習内容や生活経験とのずれを生み出す問いの設定

今回は日常にある身近な場面から、生徒の認識と社会的事象の本質とのずれが生じているような例を設定し、授業の中で生徒が本質や意義に気付くような指導に取り組んだ。具体的には、売買契約の一例を基に、どの時点で契約が結ばれたのかと問うた(資料1の問い1)。

多くの生徒は「ウ」や「エ」を選択するが契約の概念に照らすと

社会科ワークシート

姓 \_\_\_\_\_ 名 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

○契約と消費生活①  
めあて：契約の考えを理解できる。

□ スーパーマーケットでジュースを買う際、どの時点で契約が結ばれたといえるのか。

ア 総額に100円と書いてあるジュースを手にとったとき

イ お店の人にジュースを差し出したとき

ウ 代金100円を支払ったとき

エ レシートを受け取ったとき

オ お店の人と契約書を作成したとき

答え  イ

理由 \_\_\_\_\_

□ 契約とはどのようなものか、一言で表してみよう。

・契約とは \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_ である。

自己評価：5段階：分かった(5・4・3・2・1)分からなかった

・分かったこと \_\_\_\_\_

・分からなかったこと \_\_\_\_\_

資料1 ワークシート

正解は「イ」となる。このように生徒の既習事項や予想される経験知を覆すような課題を設定することが、社会的事象の本質に迫ることにつながる。同時に、生徒が主体的にその課題に取り組みたいくなるような動機付けになると考えた。また、契約とは自動車の売買など高額商品を扱う大人がするものというイメージをもつ生徒も多いが、こうした問いを通して自分自身も日頃から契約をしているということに気付かせた。

## 視 学 び 合 い 活 動 の プ ロ セ ス を 重



第49回全中社大会における学び合い活動

従来、生徒に考えさせる場面において、

でも教師と生徒の一对一の関係で思考の広がる場面が少なかった。そこで学び合い活動を設定し、この場面では、まず個人で考えさせ、次に小グループで話し合わせた後に発表させることとした。具体的には、契約の取り消しが可能かどうかの判断が難しい事例を提示し、個人で考えさせた後、班で意見を交換させた。このような過程を経ることで、生徒同士の認識のずれを、生徒同士が修正し、本質や意義を捉えることができるような授業の構成とした。

### (3) ワークシートの工夫

学び合い活動を充実させるため、考える時間を生み出す一つの方法としてワークシートを用いた。ワークシートを使用する利点としては、考えさせたい問いを焦点化することや自分の考えを整理することなどが挙げられる。また、本研究は授業の終末に重点を置いたものであり、まとめや振り返りの時間を確保する観点からもワークシートの使用は有効である。従来、まとめは多くの場合教師が行っていたが、まとめを自分の言葉で生徒に書かせることにより、生徒の理解を促すようにした(資料1の

問い4)。このことは、教師にとっても生徒の理解度を測る上で参考になった。さらに、分かったことやできたこと、考えたことを自分の言葉で書かせる振り返りにも取り組ませた。全ての授業に振り返りの時間を取り入れることは難しいが、単元の終わりなどに取り組ませることによって、自己の向上や学び方の良さを生徒が自覚し、学習内容の確実な定着と次への学びに対する動機付けになることを目指した。

### 3 成果と課題

成果としては、資料2のように、授業で学んだことを踏まえて、自分の言葉で表現させることができ、こうした取組を継続して行うことにより、社会に

③ あなたは契約をするときどのようなことに注意しなければならないと思いますか。授業で学んだことを生かして、あなたの考えを書いてみましょう。

法律などで消費者はある程度まもられるけれども、自分の身は自分がまもらないといけないので、ちゃんと見たり、聞いたりして判断しないといけない。

自己評価：6段階：分かった(5)・4・3・2・1) 分からなかった

分かったこと	もっと知りたいこと・疑問に思ったこと
契約の状況によって成り立っていないときがある。	特になし

資料2 生徒の記述

出た際に様々な場面で主体的に考える基礎づくりができた。一方、より効果的な振り返りの方法を検討するため、アンケートを取るなどして、授業前後で生徒の意識がどう変わったのかなどを明示していく必要がある。

### 4 おわりに

公民的分野の内容は、「人権」や今回扱った「契約」など生徒にとって、一見身近ではないように思える内容が多いため、理解が表面的なものになりがちである。しかし、人権思想の成り立ちや実社会で結ばれている契約を具体的な事象と関連付けながら捉えさせ、生徒自身の言葉で説明させることで生きて働く知識となると考える。すなわち、抽象的な事象と具体的な事象の往復が公民的分野の授業に不可欠であり、そうした展開のある授業を行うことが、変化の激しい社会を生きる力を養うことにつながる。全国大会の発表は終わったが、生徒の学びが豊かになり、社会に関わろうとする力を高める授業のため、今後も継続して研究していきたい。